

月刊

食品の生産拠点を支援する情報誌

# 食品工場長

3

MARCH 2014

No.203

特集

・共に歩もう！東北復興

・忘れていませんか？ユーティリティーの管理  
・どう防ぐ？食品への異物混入①毛髪対策編

背景：本社工場

Top Interview —トップインタビュー—

日本食塩製造(株)

代表取締役社長

貞永憲作氏

ルポ&インタビュー

太平洋製糖(株)



(株)岡清

地域の水産業者や同業者と  
一体となり、復興にまい進

復興企業  
紹介2



A 三陸前浜工場。1.3mかさ上げしたため道路と段差が生じた。段差にはシートがかけられている。将来的には道路も工場の高さまでかさ上げされることになる

B 滲さずに残った柱を使って重建された水産物加工場

#### B 流されずに残った柱を使って再建された水産物加工場

## 【会社概要】

所在地・宮城県牡鹿郡女川町小乗浜115  
設立・1947年  
事業内容・鮮魚目貝類・冷凍魚・水産加工品などの加工・  
卸売、小売業  
従業員数・約50人

### 〔三陸前浜工場概要〕

所在地 ● 宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜 223-1  
敷地面積 ● 1200m<sup>2</sup>  
延床面積 ● 532m<sup>2</sup>  
稼働時間 ● 7:00～17:00  
製造品目 ● 水産物の刺身など

## 【水產物加工場概要】

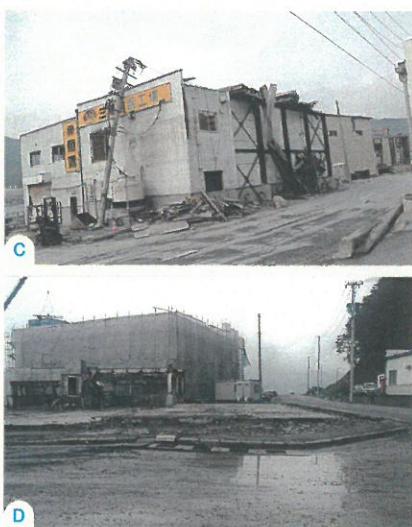
所在 地 ● 宮城県牡鹿郡女川町小乗浜 115  
敷地面積 ● 1349m<sup>2</sup>  
延床面積 ● 800m<sup>2</sup>  
稼働時間 ● 7:00 ~ 17:00  
製造品目 ● 「たこのやわらか煮」などのレトルト食品、「いかの切り込み塩辛隊長」「ちょい辛貝ひも」などの珍味、「蛸のオリーブオイル」などの瓶詰、「湯通し塩蔵わかめ」など

の外食店 小手元には王に量販店に鉄9  
東日本大震災発生當時、三陸前浜工  
場と水産物加工場では、合わせて65人  
の従業員が作業中だった。マグニチュ  
ード9・0という未曾有の揺れに襲わ  
れた瞬間、場内では天井が落ちたり機  
械が倒れたりし、場外ではトラックが  
跳ね、三陸前浜工場横の岸壁は完全に  
崩れ落ちた。揺れが続く中、60年に町  
に大きな津波被害をもたらしたチリ地  
震で得た教訓から、従業員たちは「今  
回も必ず津波が来る」と予測し、数班  
に分かれて近くの小高い丘に避難し  
た。実際に女川町を襲った津波は湾奥

「震災時、私は約10km離れた石巻にいました。揺れが収まつてから会社に戻ろうとしましたが、道路は寸断され通れない状態でした。そこで、歩いて山を越えて従業員たちと合流しました」  
**(岡昭彦専務取締役)**  
その後、従業員の多くが丘近くの旅館に移り、最長で3週間ほどまった。

- C 震災直後の三陸前浜工場。内部の機器などが流された上、中に入ることもできなくなった
- D 再建に向けて解体が進んでいる様子

D 再建に向けて解体が進んでいる様子



専務取締役  
**岡 明彦 氏**  
*Akibiko Oka*

●プロフィール  
1977年生まれ、宮城県出身。97年(株)岡清入社、03年より現職。



## 実印しか残らない 状況からも 工場再建を決断

を急いだのです

はいうものの、市場再開に当たつて懸念があったのも事実だ。女川町役場のホームページによると、同町は今

震災翌日の12日に工場に行つてみる

と、三陸前浜工場は地盤沈下の影響で慢性的に場内に水が入り、水産物加工場は残っていたのが鉄骨の柱だけ。原

材料や機械などは、何が流されて何が残ったのか見当も付かない状況だった。

「使えそうなものは、私の机が引き出し側を下にして床に倒れたおかげで流れずに残っていた実印くらいでした」

工場内の片付けを始めたのは震災から2週間後。当初は工場を再開させるかどうか迷っていたが、片付けが進んで工場の床が見えるようになつたとき、「ひょっとしたら立ち直れるかもしれない」という思いが脳裏をよぎつた。

そこで最終的に11年5月、水産物加工場は残った鉄骨を使って工場を再建、三陸前浜工場と本社はいったん更地にした上で地盤をかさ上げし、そこにあるため施設を建設するという方針が決まった。

## 工場を再建する様が 水産業者の励みに

「震災後の3月から4月にかけて水産業者が今後についての会合を開き、7月をめどに市場を再開する方針が決定しました。水産物が揚がってくるようになつたら、当然それを売つていかなればならない。そこで、これに間に合わせるように水産物加工場の再建

年1月30日現在で死者569人、死亡認定者（震災行方不明者で死亡届を受けられた者）255人、行方不明者3人、住居被害は全壊2924棟（66.3%）、大規模半壊147棟（3.3%

%）、半壊200棟（4.6%）、一部損壊663棟（15.0%）という状況

だ。「水産物は揚がつても、町内でそれを買つてくれる人がいないのではないか」との気掛かりもあつたが、だからこそ岡専務は「われわれのような業者が水産物を仕入れ、町外の多くの地

域に流通させなければ、水産業者が困る」と判断し、工事を急ピッチで進められたのだ。

水産物加工場は港からも見える位置にあり、工場が再建される様を見た水産業者の中には、「一時は廃業を真剣に考えていたが、岡清が復活する光景を見てもう一度事業を再開させようと考え直した」という者も出てきたといふ。工場再建が大きな励みになつたのだ。

7月の市場再開とともに、同社はカレイやタコなどの活魚を入荷、水産加工場で手作業でさばいて出荷した。しかし、養殖ものの生産が再開されると岡清一社で全量を仕入れるのは不可能だ。

だつたため、岡専務は再開か廃業かを迷っている業者を回り、事業継続を訴え掛けた。

## グループを結成し 経済産業省の 補助事業を活用

もちろん精神論だけで事業は継続できるものではない。そこで同社がりーきるものではない。そこで同社がりー



1 三陸前浜工場で加工する水産物は、まず工場に隣接した水槽に入れる

2 省力化のために新たに導入されたホッパー

3 ホタテ貝柱をサイズごとに選別してから袋詰め

4 出荷容器に入れて冷凍する

5 水産物加工場の水槽は場内にある

6 水槽から出した海産物を水洗い。取材当日はアナゴを洗っていた





ダーノり、水産加工業者10社が集まつて養殖水産資源復興推進グループを結成。11年12月に経済産業省の「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」（グループ補助金）による補助を受けた。同制度は復興のリード役となり得る「地域経済の中核」を形成する中小企業等グループが復興事業計画を作成し、県の認定を受けた場合に、施設・設備の復旧・整備について補助を行う制度だ。この補助を基に復活に向けてまい進する一方、卸先との取引再開にはある意味、運も味方した。

「震災以降、取引先は代替品を使用していたのですが、取引再開を目指したのがちょうど他の产地の商品が品切れにならなかったので、比較的スムーズに取引を再開することができました」しかし、取引先も今回の震災以降「仕入れ先を複数社に分散することで、仕入れリスクを回避する傾向」が強まっていること、すでに取引を開始した他産地の業者とも継続して取引していることなどから、震災前と比較して、取引先一社に対する女川町の水産加工業者の比率は下がっている。

「落ちた分は、取り扱う海産物の種類を増やし、新規の取引先を増やすことでカバーしていくことを考えていました」

「震災以降、取引先は代替品を使用していたのですが、取引再開を目指したのがちょうど他の产地の商品が品切れにならなかったので、比較的スムーズに取引を再開することができました」

### 衛生管理を 意識した工場を コンサルタントが具現化

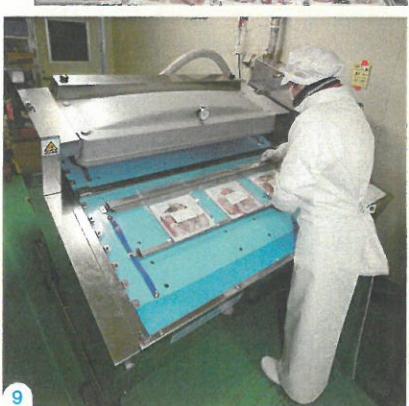
本社・三陸前浜工場は13年7月に再建した。専務は震災とは関係なく「今後は衛生管理を意識した工場にしていかなければならない」と実感していたという。そして、当然のことながらそ



8



7



9

7 レトルト食品の調理と殺菌を同時に大量に行う、熱水噴流式調理殺菌装置を設置

8 鍋物用の食材は切り分けた後、手作業で個袋に詰める

9 真空包装機で包装する

になる時期だったので、比較的スムーズに取引を再開することができました」しかし、取引先も今回の震災以降「仕入れ先を複数社に分散することで、仕入れリスクを回避する傾向」が強まっていること、すでに取引を開始した他産地の業者とも継続して取引していることなどから、震災前と比較して、取引先一社に対する女川町の水産加工業者の比率は下がっている。

「最初は地元の業者だけで再建しようと思っていたのですが、どうしても衛生管理に対する知識が足りない。そこで、その部分で『何をしたいのか』という希望をエコアに相談し、それを具現化してもらって工場を再建する際に生かしました」

2月26日に地鎮祭を行い、3月18日

に着工。まず地盤を1・3mかさ上げするところから着手した。そして一部2階建て延床面積532坪の建屋を立ち上げ、加工機械などほぼ全て新しいものを導入した。殻付きカキやホタテを加工ラインに移送する工程に新たにホッパーを採用し、省力化も図った。現在、同社の従業員は約50人。震災前から働いていて復帰したのは約20人で、新たに約30人を雇用した。両工場を合わせた生産数量は震災前とほぼ同レベルまでに回復した。

「震災で学んだのは、生産者である水産業者とわれわれ加工業者は一体であり、これからも協力体制を保ち続けていくこと、そして何より人と人とのつながりがいかに大事かということでした」

まだまだ復興の真っただ中にある女川町で、同社は地域の水産業者や同業者と一緒に前進を続ける。

## 震災にも負けず今後も永続を



代表取締役  
**岡 誠氏**  
Makoto Oka

私は子どものころから家業を手伝い、18歳から本格的に仕事を始めたので、40年近く水産加工業に携わってきたことになります。今回の東日本大震災は、そんな私にとって「想定外もいいところ」と言つていいほどの大惨事でした。そのような中で、水産物加工場の柱が全く傾きもせずに残っていました。

業者に相談したところ「これを使って工場を再建できる」とのことだったので、再建に着手しようと決断したのですが、被災した工場が数ある中で、当社が真っ先に再建するのにはお墨付きがあった方がいいと考えました。そこで女川町役場に相談し、早期着工の許可を得て再建を開始しました。

そこには7月の市場再開が決まっていたので、「やられっ放しでは駄目だ。動ける人から動いていかないと」という思いで動いていました。専務も言つてましたが、当社の再建は生産者の命になりました。その後、経済産業省の事業による補助を活用して再建を推進していますが、まだまだ復興途上にあると言つていいと思います。

先代の父・清郎と私が道筋をつくった岡清。私の夢は、この会社を、震災にも負けず、今後も永続させていくことです。これは息子である明彦専務に託しました。



## 思いを引き出し、具現化



エコア(株)  
東京事業所長  
**齋藤 慎太郎**  
*Shintaro Saito*

●プロフィール  
1967生まれ、東京都出身。早稲田大学社会科学部卒。FSSC 22000審査員・食品工場新築コンサルタント。

「食品安全の仕組みを構築すること」を事業とし、その手段として工場建築も業務としている当社が、岡清さまの新工場建設に携われたのは、当社クライアントからの紹介という縁からでした。初めて岡明彦専務とお会いしたのは、12年9月11日。20mの大津波が襲った女川港の買受人協同組合の事務所でした。同26日に新工場建築の打ち合わせを行った際、岡専務が「HACCPは書類が多くて面倒」と言われたのに対して、HACCPの概念を説明し、高度衛生の実現は「ハードとソフトのバランスが鍵」と説明したと記憶しています。

クライアント企業にとって工場新築は、一代に一度あるかないかともいえる大事業です。さらに今回は、沿岸の民間企業で新工場建設に着手した一番手ということもあり、建築を任せられたときは専門家として責任の重大さをあらためて感じました。

打ち合わせ段階で図面を十数回修正するなど、岡専務とは徹底的に話し合いました。重要なのは「専務の思いは何なのか」を引き出し、その思いを具現化すること。オペレーションの負担を軽減する、高度衛生を実現する上で、工場建築は大切な項目の一つであり、ここで間違ってしまうとまた何年もその工場を使用しなければならないので、失敗は許されません。岡専務の思いは「魚屋という職業に一生を懸けて本気で取り組んでいきたい」ということ。当社もそれに全力でお応えし、高度衛生対応工場を実現しました。

「変わって良くなるものと、変わらないことが良いというものがあると思います。先達が残してくれた伝統に感謝し、それを守りながら新しい風を吹かせつつ一步一步確実に前進していきたい」という企業理念を持つ同社が、最新の工場で一生を懸けて魚屋に取り組んでいくのを、当社もコンサルティングの立場から支えていきます。

## 各種規格対応の食品施設新築 & リニューアル

HACCP・FSSC22000・ISO・GMP他専門コンサルタントが設計・監修！



2013年新築施工  
マルセ秋山商店様

HACCP仕様の工場で、殺菌装置も整え、品質と衛生管理の統一化により一層の管理体制が構築されました。災害時の避難可能な非常階段で屋上に上れる設備を備け、出入口も階段で上る高めの設計で、非常時にも備えた設備設計となっています。



2013年新築施工  
株式会社岡清様

衛生状態の管理が行き届く設計として、人、モノのラインを考慮し、動線計画、ゾーニングを設計段階において確実に構築し、衛生管理が万全な工場を設計しました。細やかな衛生管理の設備で確実な製造環境を構築致しました。



2013年新築コンサル  
株式会社布目様

工場内の安全性と品質管理を重点に、生産性、管理体制の向上可能な製造環境を構築する為、総合的な選定を行い、より高レベルな製造環境構築が可能となりました。高度衛生管理に対応し、FSSC22000認証取得を実現。



Food Safety System  
Certification 22000

FSSC22000認定研修機関

# エコア株式会社

東京本社・山梨・横浜・松本・東海・群馬・九州

本社

〒190-0021 東京都立川市羽衣町1-5-15  
tel042-524-3232 fax042-527-8700

お問合せ

0120-989-587  
<http://www.ecore.jp>